

令和6年11月25日

小野市議会議長 様

総務文教常任委員会
川名善三

行政視察報告書

先般、実施しました 総務文教常任委員会 行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 令和6年11月12日（火）

2 視察メンバー

河島信行・高坂純子・前田光教・小林千津子・山本悟朗・宮脇健一・掘井ひさよ
川名善三

3 視察先及び調査内容

滋賀県守山市（人口：約8万5千人、面積：55.73K㎡）

もりやまエコパーク環境センターについて



4 調査結果

・滋賀県守山市

人口：約 8 万 5 千人、面積：55.73K㎡

《視察項目》

もりやまエコパーク環境センターについて

《視察内容》

守山市の概要

滋賀県南西部の琵琶湖東岸、湖南平野の中央部に位置する市
市南部を南西から北東に江戸時代当時の中山道が横切り、江戸時代には、中山道の主要な宿場として栄えた。

【「もりやまエコパーク環境センター」について】

【施設建設までの経緯】

- ・昭和60・61年に焼却ごみ処理施設及び粗大ごみ処理施設（旧環境センター）が稼働するも、老朽化により更新の必要性に迫られていた。
- ・平成13年に滋賀県が 県南部広域処理施設整備計画を発表したが、平成20年に計画が白紙となったことから守山市単独で施設整備に取り組むこととなった。
- ・平成29年守山市環境学習都市宣言の制定及びエリア全体を環境センター付帯施設として交流拠点施設（温水プール/温浴施設/交流施設/環境学習室/環境部門の市役所機能を移転）を整備する計画等が決定
- ・平成29年環境施設整備・運営事業者入札公募（DBO方式）
- ・平成30年に(株)協和エクシオに決定
- ・令和元年環境施設建設工事に着手（6月）交流拠点施設着工（12月）
- ・令和3年4月交流拠点施設共用開始・10月新環境センターが稼働開始

【施設の概要】

- ・施設名称： もりやまエコパーク環境センター
- 規模： 熱回収施設 71 t/24 h（35.5 t/24 h×2 炉）
- ・所在地： 守山市環境学習都市宣言記念公園 1 番地 2（地名については後述）
- 敷地面積： 約 2.5 ha
- 建設工期： 平成30年9月～令和3年9月
- 総工費： 72億3600万円

設備概要	
熱回収施設	
受入供給設備	ピットアンドクレーン方式
燃 焼 設 備	全通気燃焼式ストローパイル
燃焼ガス冷却設備	四熱ボイラ方式
排ガス冷却設備	排煙機、ろ過式集じん器、脱硝反応塔
灰 出 設 備	灰卸板/ピット貯留
灰 貯 留 設 備	灰 貯 留 池/重熱処理後ピット貯留
余熱利用設備	蒸気タービン発電設備1,400kW(基準ごみ2.5割削減)
リサイクル施設	
受入供給設備	受入ヤード、受入ホッパー
砕 砕 設 備	急速回転式破砕機、高速回転式破砕機
選 別 設 備	磁選機、軽比重選別機、重力選別機、アルミ選別機

建築概要	
工場棟	
建築面積	5,264.68㎡
延床面積	10,631.00㎡
構 造	鉄骨造/鉄骨鉄筋コンクリート造/鉄筋コンクリート造、地上6階建て
管理棟	
建築面積	450.80㎡
延床面積	819.00㎡
構 造	鉄骨造、準耐火建築物、地上2階建て
計量棟	
建築面積	153.00㎡
延床面積	187.00㎡
構 造	鉄筋コンクリート造+量規鉄骨造、地上1階建て
ストックヤード棟他	
建築面積	674.65㎡
延床面積	585.60㎡
構 造	鉄筋コンクリート造+量規鉄骨造、地上1階建て

[施設の特徴]

71 t/日(35.5 t/24h×2炉)の小規模施設であるがエネルギー回収率は18.5%と高水準を誇る。

新センターは旧センターと同一場所ではあるが、一帯は守山市のゴミを投棄していた池があった場所で、地下水を止めケーシング内のごみの臭いの対策を行うことや、止水層を傷つけずに土壤に杭打ちを行うことなど、事業者選定委員になっている専門家の知見を活かして施工方法を計画した。

また、以前に地元産の野菜が売れないなどの風評被害もあったとのことから、新センター建設に当たり地元へ配慮し地名も変更している。



最終処分は大阪湾広域臨海環境整備センター(フェニックス)へ搬出し、守山市最終処分場(同一敷地内)にはリサイクル施設から発生する不燃残渣を搬入している。

売電収入は年間6,500～6,800万円程度で、市役所本庁舎、交流拠点施設、最終処分場に送電し使用している。(発電量のうち1/3を場内で使い、2/3を売電)

リサイクル施設では、粗大ごみ・不燃ごみを低速・高速破砕機にかけ、磁選機や流動選別機で分別し鉄とアルミは売却。不燃物は最終処分場に埋立。缶はアルミと鉄の2種分別、ペットボトルは、コカ・コーラボトラーズジャパン(株)に売却している。



【「もりやまエコパーク交流拠点施設」について】



施設内のバラ園

もりやまエコパーク環境センターに隣接する「環境・健康・交流をはぐくむ活動拠点づくり」をコンセプトとした施設。プール・学習室・温浴室など多様な施設を擁する。令和3年4月オープンの同施設は、環境センターで発生する廃熱を活用し、館内を「環境」「健康」「交流」とした

ゾーン分類、温浴施設をはじめ、トレーニングエリア（ジム）、体育館、リユースステーション（再利用可能な粗大ごみを市民に提供）、環境学習室、工作室、キッチンエリア、温水プールなどの施設を擁する市民の交流、活動拠点とした。25m7レーンの温水プールは、年間平均約30度の水温と、約31度の気温を維持。プールでは、ウォーキングと水泳教室用のほか、市内の小中学校の水泳用としても一部利用されているとのこと。（テスト運用中）



リユースステーション



調理室

利用料金は守山市と近隣の野州市、栗東市、草津市が対象の「湖南四市」の市民とその他で区分される。温浴施設では定期券も販売されており、毎日利用する市民もあるなど親しまれている。今後はスケートボード場やサッカー場も設置が予定されている。

《所感》

平成25年に施設更新を決定してから、9年を経て完成した施設であり、環境センターにおいては、最新の技術が取り入れられ、ごみ処理施設の概念を大きく変えるものであった。このような施設の特徴である煙突も目立たないように工夫されているほか、所在地名まで変更するなど、地元への配慮が至るところに見受けられた。付随する交流拠点施設においても温水プールにとどまらず、環境をメインテーマとした教育、健康施設となっており、盛りだくさんの設備を整え、多くの市民に親しまれている様子が伺えた。また、今後においても、スケートボード場なども計画されており、さらなる充実が図られる予定となっているが、市単独の運営であることから、施設整備における自由度が小野市での事務組合運営との異なるところであると思われた。

エコ自販機



体育館



工作室